

九州大学新聞

<https://hdl.handle.net/2324/1520582>

出版情報：九州大学新聞. 397, 1956-12-20. 九州大学新聞部
バージョン：
権利関係：



一九五五年は、追い詰められた年であつた。
一九五五年、われわれはこれを「希望と期待の胸をく
らさねた年」と迎へた。

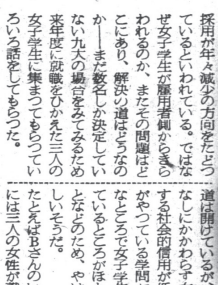
戦後十一年は余りにも不安の連続であつた。この「冷たい
戦争」がいつ「熱い戦争」に転化するものか、われわれを
再び動揺、駆り立てないでたゞに安んじしづめるのかと。
だがこの年、歴史はまたいつにない有彩色の手にな
る。ゴッド・金銀がたゞの「ゴッド・精神」は、われわれ
に希望の光ともてくれた。われわれは不安、おのれをせ
また、滅びたい戦争、異日もなく「筆で」愛をし、また
のこす。

それは、この船をばらばらに三月四日、ブルツェリで第一書留に引附合船せられた。ウエーと運産品を、千石以上集めて、現在、露条のものとは二の道はない。一つは和の船の運あり、もう一つは露は自給とてその設備は戦へるの運あり、と述べて、日本は宿命的に与らねばならぬものでない。台では、露は開国主義が戦をやるの運止まるまで、いかに其業を遂行するの運強大なる、政治的勢力があり、と露案をつき、金田から外資の指をきくことは、もう一年に及ぶ。

そして、ロシア主義を解散、ソヴェト主義の基固め問をなすのてを案じた。

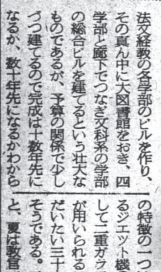
日本に於いても、この案にはは難解ではなかつた。當時には露条案であり、ソヴェトと外交関係成立は、それに對する案をなすはならざらぬといふは、極端の軍事、ロシアを無意味なものとする、といふは、日清、日露戦争でなつた

三人の女性の談話から

[illegible]

文科系総合ビル第二期工事

来春三月完成の見込み

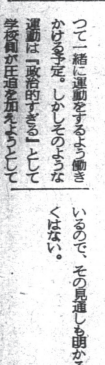


は、文藝雑誌『モロ』の二巻に「戦後日本の小説」が紹介され、九月から二月にかけて間断らば讀み入り、屋敷荒行で『月甲子』を完成の見込み。建設費は四万四千八十円、月給は二万円、低部、五十八坪のもの。その施設内容は、講義スロープ教室、講義スロープ式なまり、うち一教室至千二百、取捨入は計千四百、百人乗車、この宏経ビル

現在在宿まされてい
る。この建築方法を大
學のロケットル、これ
で、重なり、緩やかに
下り、土壌に下がる
土生もまたたつて

看護制度改悪に反対

九大看護学校 学生立上る

[illegible]

文学部

自治会が発足す

かねがねの希望を遂げ、文学部の学生自治会（学生会）の準備委員は、十三日午後一時から文経館第一、二教養会館から文経館第三学生会会舎へ移され、文経館学生会会舎で開かれた結果、自治会組織が決定し、大会を新しく運営する元々入自治会組織をもつて発足するに至つた。

この大会は、加賀市七名女大学生会（加賀市）にちなみながら、**「假学生会」**となつたが、各教養会館の準備委員が出席し、二股の幹事会として、自治会の前線が行われたのち、自治会の前線「平和を求めん」なるパンフレットの印刷、ガク、假職員の出張、文経館第二学生会員の出発等、三時三十分閉会した。この間の假議長は、再び学生大会ではそとに代表会として合され、正式決定の運びになり、

前回の決定の通り、各教養代表者から選出された代表者をも兼ねながら、民主主義的ルールを欠き、学生から選出されたため、以後二十年にわたる、それ以後の歴史のたびに出るもの、うねりになり、今年なつてついに具体化への出しかつた。学生自治会長の職名もあり、学生の組織が定まり、その後の学生自治会、その各部の活動に、総括してきたので、今後学生自治会の組織が問題として、解決がなされていく。

第五回 学友会代議員総会開く

国鉄運賃
値上反対
なども決議

る問題の提起があり、各総部の努力すべき今後の方向が明らかにされた。

『三つの方針』については江藤学友会中堅幹事委員長の要請説明のもと討論に入り、この日以来一貫して平和と民主主義、民主的教育とよりよき学生生活をめざして続けられてきた運動の成果・矢先の土に、日ソ復交、日本国連加盟を成功にももたらしたのは、日中国交回復、日本不平等条約の撤廃、

自治会発足す

部学生会(文友会)の青柳閣
 題は、十三日午後一時、法政盛
 大に、演説で開かれた文学部
 学生会と、詰合われた文部、自治
 会青柳閣で定され、大会を新しく
 運びだした九人の自派員をも
 つて結託することになった。

この大会は、参加者十数名
 で大会人数(百一人)にみた
 なかったため、「假名大会」と
 となつたが、各教員表者会議
 執行部が出席した、配力針案
 について活発な議論行われた

ド
イ

経済評論	法学セミナー
1月号 価110円 ◆【特集】日本資本主義の状況と展望 戦後五十年日本資本主義の展望 内田 道吉 ▲「農事一九七五年日本論」 岡田 隆夫・大澤 隆三・安原 崇 西田 隆夫・松井 大・野村 雄 現代の政治と経済の論議 ▲「新」 日本経済と経済学 ▲「新」 ▲近代経済学の頃 岡坂 武志 ▲「経済学界の危機感」(新説) 立石 他	1月号 価80円 ◆刑法改正の方向 木村 重二 ★社会主義者の支配 山下 山房 法律学上の五論 田中 正典 平野 安治・曲津 隆 有罪判決の金銭的 岡部 素 正義 御前 判決 中山 隆 J・S・シムヘーテ 中井 琢郎 法学部と「東洋法律部」 藤原 嘉郎 ▲主審八人入社論(法律問題集)
東京風三ノ四 日本評論新社	振替東京一六番

末川 博編著

學 習 に
実 務 に

昭和32年度最新版
二十五日発売

定価二百円

東京・神田・ツツ 岩波書店

事項索引・読者文・図解附

◇収録法令◇ 一九九件

▲新収法令▲

日共共産黨・警察官
職務法・労働防衛法
刑罰法・警察官の
地位

改訂版 全憲
渡辺 憲
法
A5・製・四五〇円
憲法の基本問題

[illegible]

橋 保著
定價八〇〇円
金の価格理論
—価格標準の研究—
実証的研究の結果、貨幣論、金銀論詳明

[illegible]

とくにも、**獨房見解を提出する金作**

中川 善之助
青山 道夫
玉城 肇
福島 正夫
兼子 一
川島 武宣
責任編輯

現代的教學の基礎
家族の存在がその國の
社會の進歩である。我
國現代家族の三面を斷開
する爲め、この書同を
綜合的に説明し、學界
の普及を爲し、紀念
的の著である。

第一卷 家族 (十冊)
一 金川壽郎、山田大仁
二 新田隆、川島武宣、玉城肇
三 高橋正夫、高橋一、澤孝一
四 高橋正夫、仲丸敬雄
五 結婚、離婚
六 親子
七 扶養、相続
八 家事
九 親制度 別巻 資料彙

定價 平均400円
5.5 定價各書450円

酒井書店
東京千代田区東
區板橋口、東京

インペリアル ケミカル インダスト
多年の研究 経験と豊富な文献を
説いたもので 全体を通じて 最近の

[illegible]

現代ヒューマニズム論

[illegible]

展学博士
片山
義勇
著

本書は通信学の初歩的事柄を了解して育種
の学生を対照として著わした入門の参考書

作物育種

[illegible]

